

H23 午後 2 問題 2 を評価して

2013/2/16

by koyano

先ず、私が考える、問題文から読み取れる題意と執筆上での留意点を述べます。

設問ア

1. プロジェクトの特徴と品質目標

1.1 プロジェクトの特徴

特になし

前触れとして、良品質が問われるシステムであること、このプロジェクトにとっては「予算や納期」が制約であることを触れる。さらに私の立場(PM)もここで述べておく。

1.2 設定された品質目標

- ・業務要件の正しい把握
- ・既存機能のデグレート撲滅

上記は直接的には記述されていないが、読み取れる。

上記は例であるので、手持ちの別目標があれば設問イと同時に考え、決定する。

システムで何故この品質目標なのかを述べること。

設問イ

2. 達成を阻害する要因とその品質確保策

2.1 品質目標の達成を阻害する要因と判断した根拠

- ・要員の業務知識が不十分・・・
- ・稼働中のシステムの回収の影響・・・

判断した根拠は「具体的に」。

2.2 品質確保策

【ここで具体的に述べる】

- ・ウォークスルーやプロトタイプ・・・
- ・構成管理や回帰テスト・・・
- ・「品質計画に含めた品質確保策」

つまり、計画時に検討し「品質計画書」に文書化していること。

設問ウ

3. 制約条件下の私の工夫とその評価

3.1 予算や納期の制約条件下の私の工夫 【ここで具体的に述べる】

- ・ウォークスルーの対象を・・・
- ・構成管理でツールを活用して・・・

「予算や納期」は与件とされたので、これ以外の制約条件は考えないこと。

ここは PM としての工夫点が求められている。

3.2 私の工夫した結果の評価

特になし

論点は表題通り、確保策の結果の評価ではない。結果的には品質確保策は成功となるが。

B の評価とさせていただきます。

総評 字数制限の勘違いがあります。それを抜きにして以下の表の条件 3 の 1)2) B が主要因です。採点者は 10 分/論文だと言われています。その点、一読でスッと頭に入る文章表現です。しかし本論文は書き過ぎの感があります。手書きでは 3 時間でもこんなには書けません。

まだ 2 ヶ月ありますので、「手書き」で時間を計り 2 時間 30 分を目指す訓練をされるのが良いと思います。

条件 1	最低限の記述スタイルが守られている	A 特に問題ありません。
条件 2	1) 字数制限が守られている	C 字数制限の件、勘違いしています。
	2) 読みやすい丁寧な字で記述されている	PC 入力のため不明
条件 3	1) 設問で問われている構成になっている	B 制約条件が抜けています。
	2) 問題文で問われている内容になっている	B 計画段階と実行段階が明確でない表現があります。
	3) 設問で問われている解答になっている	A 上記 1) に引きずられています。
	4) 意思決定のプロセスが記述されている	A 良く書けています。
条件 4	1) 試験区分の内容になっている	A- <私は、PM のあなたの S 氏の扱いが気になった。でも本質論ではないから。>
条件 5	1) 結論から先に書かれているので分かりやすい	A
	2) 理由が記述されているので分かりやすい	A
	3) 具体例が記述されているので分かりやすい	A 箇条書きは[具体的に述べよ]の一例で良い表現方法です。
条件 6	1) 最低字数制限の 1.2 倍程度は記述されている	条件 2 1) から無意味
	2) 各段落の記述量が適切である	B 2.2/3.1 がメインになっていますが、記述が多すぎ。
条件 7	十分な知識が記述されている	B PMBOK 用語、PM 専門用語も 3 つ程度有ると良いが。 添付 PDF を参照して下さい。
条件 8	定量的表現がされている	B 特に「良い」とは言えない。

先ず、全体についてコメントします。

- 記述形式から；

1. 設問ア、イ、ウの解答はその単位で改頁しましょう。本番試験でも原稿用紙は設問ア用に2枚、設問イ用に4枚、設問ウ用に3枚配られるので、間違えることはありませんが、以後、私の指摘は改頁した行のもので行います。

2. 設問アは「800字以内」の字数制限があります。この数え方は、実文字数(本論文では769文字)では無く、1行に2文字でも書けば25字と計算します。ですから800字以内は32行以内に納めることになります。本論文では、1&2行目と「1.2品質目標」の前の空白行で3行は無駄をしています(32行以内に収まるなら、使用してもかまいませんが)。そのため、2ページ目に大分オーバーしました。

設問イは「1600字以内」で7行オーバーです。

設問ウは「1200字以内」で12行オーバーです。

本番でこうなりそうなら、消して書き直しても短縮を実施すべきです。形式ではねられたら一番つまらないですから。

- 本論文を読んだ後に2点引っかかった個所をあげます。

1. 設問ア、イとウの「3.1品質確保策における工夫」までは計画段階

→設問イには、「・・・品質計画に含めた品質確保策はどのようなものか。」と問われている。

設問ウもその時の工夫である。つまり計画段階の策や工夫で、それを「品質マネジメント計画書」に記載したとなります。

しかし、本論文では、

4ページ目の13行目「・・・次のような対策を**実施**することにした。」や「・・・各部門の担当者にも直接ヒアリングするよう**指示**し、・・・」とかの実施段階の言葉使いが散見されます。

6ページ目の2行目、「3.1品質確保策における工夫」や以降は明らかに実施段階の表現です。計画段階の表現に改める必要があります。

設問ウの「3.2品質確保策の結果と評価」は実施後段階でokです。

2. 設問ウの「3.1品質確保策における工夫」

→設問ウには「予算や納期の制約を考慮して、どのような工夫をしたか。工夫した結果についてどのように評価しているか。」となっています。

「1.N氏との事前打ち合わせと同席、2.レビューはテーマを決めて。プロトタイプ 3.集中的に確認する会議の開催」これらはいずれも作業の効率化、やり直しの削減の効果があり、結果としては、納期や予算の厳守に繋がることは理解できます。しかし制約を考慮した工夫だという強さが読み取れません。

問題文の例にもあるように、「～することで期間を短縮する。～することで無駄な出費を抑

える。」とか、「しかし、この対策を単に実施したのでは、スケジュールの遅れが心配されるので、以下の工夫を策定した。」とか明確に述べた方がアクセントになります。

それから、何故この制約条件の設問があるのか、このプロジェクトにとって「予算や納期」が制約であるのかを、答えてやる必要があります。これは、3章では無く、「1.1 プロジェクトの特徴」に2行程度で前触れをしておくことです。本論文は書き過ぎの感がありますので、余り関係のない個所は削ってください。

例えば、「そんな折、Q社からM社へ、これ以上、M社のシステムの保守を継続することが難しいと申し出があり、私が所属するA社に声がかかった訳である。このような事情から、」

→「M社では、保守性の悪化や部門間の非連携による経営情報の不連続等に対応するために、新システムの開発を決定し、当社が受注した。」

そしてこれがあれば、3.2も制約条件を守れたので結果評価できる。となります。

- 個別に指摘しコメント・添削します

1. 1 ページ目 27 行目、「メンバー…各部門から選出された代表者」

→プロジェクトメンバだから、A社のメンバと思っていましたが、(ページ4行目2行目)からM社の社員のメンバなのですね。でも(ページ4行目20行目)ではそうでないような。多分誤解が発生する個所です(ページ4行目29行目)。もしM社のメンバなら「利用部門代表」とか用語を選択した方が良いと思います。

設問イウの解答は、「具体的に述べよ」

→本論文では、2.2と3.1で3点に絞った箇条書きにしているので、良いと思います。

2. 1 ページ 29 行目、品質目標

→品質目標は、品質方針を基に発注者(のプロジェクトオーナー)が決めて、受注者であるA社のPMが対応案を策定していきます。本論文では、品質目標を、1帳票・画面の統一性、2高いユーザビリティの2つを設定しており、どちらも品質特性の使用性に属するものです。しかしM社のプロジェクトオーナーの設定した品質目標としてはチョット小さくありませんか。

1 ページ 24 行目、「上流工程での顧客のハンドリングが重要となるプロジェクトであった。」で述べ、後半主にこの点を展開しているので、これは要件把握つまり品質目標の機能性であり、ひとつはこれを採用しては如何でしょう。

本来、PMの仕事ではありませんが、論文のシナリオ上その方がスッと入ってきます。

- 最後にこれは「蛇足」ですが、S氏の役割はなんですか。(PMの知らないうちにプロジェクトに組み込まれていた。というのは良くあることですが。) 余り頼りにならないので、放置しているように読み取れます。PMとしては人材育成、モチベーションアップも

ありますので、フォローして挙げてください。但し本論文の趣旨から外れるので、サラッと
です。

以上